

## オリンピックの顔と顔 ～多様性と調和

五輪史上初めて一年延期された東京2020オリンピック競技大会が閉会しました。一方、新型コロナウイルス感染症のパンデミック(世界的大流行)は、感染拡大と終息傾向の波を繰り返しながら、まだまだ収まる気配を見せておりません。そんな中でのオリンピックでした。開催自体に賛否両論があった上に、感染対策をどこまで徹底できるかなど、運営を巡っても様々な議論が飛びかい、加えて関係者の不祥事も取り沙汰されて混乱が広がる異例の展開となりました。開幕後も東京都のみならず、都市部を中心に全国的に感染拡大が加速化して、オリンピック継続の是非論まで出てきました。それでも、本市出身のフェンシングエペ団体宇山賢選手の金メダル獲得など、日本人選手の予想以上の活躍があり、世界のトップアスリートが繰り広げる熱き戦いは、コロナ禍で気分が沈みがちな多くの国民の感動を呼び、元気を与えてくれたように思います。

競技は一部を除いて無観客で行われました。せっかく自国で開催しているオリンピックなのに、基本はもっぱらステイホームでのテレビ観戦です。生で競技を観られないのは残念でしたが、感染拡大の状況も考え併せると、仕方ないことでしょう。

そんなことを思っていた時、ふと三波春夫さんが歌った前回東京大会のテーマソング「東京五輪音頭」のサビの部分思い出しました。「オリンピックの顔と顔 ソレトントトント顔と顔」という歌です。前回昭和39年に開催された東京オリンピックは、様々な顔を持ったアスリートが世界中から我が国に集い、人類の多様性を一般国民レベルで実感した最初の機会であったように思います。そして、今回の東京大会のコンセプトも「多様性と調和」というものです。テレビ越しではありましたが、世界中の様々な「顔と顔」が付き合わされ行われた真剣勝負を通じて、多様性を尊重し、社会的調和を図っていくことの大切さを、多くの国民が実感できたオリンピックであったと願いたいと思います。

